二、妙本寺

松坡先生が鎌倉に居を移した明治三十七、八（1904、1905）年頃から、藤沢片瀬の龍口寺で藤原日迦（にちか）上人を師として修行していた片野玄貞（げんてい）（号は晃陽（こうよう））との交友が始まりました。玄貞は所謂「詩僧」で、詩の指導を松坡先生に仰いだのです。玄貞は先生が主宰した松社の同人でもありました。玄貞と並び日蓮宗三羽烏と称えられた「島田日雅（にちが）上人」「横山仁秀（にんしゅう）師」と松坡先生の交校も生まれました。

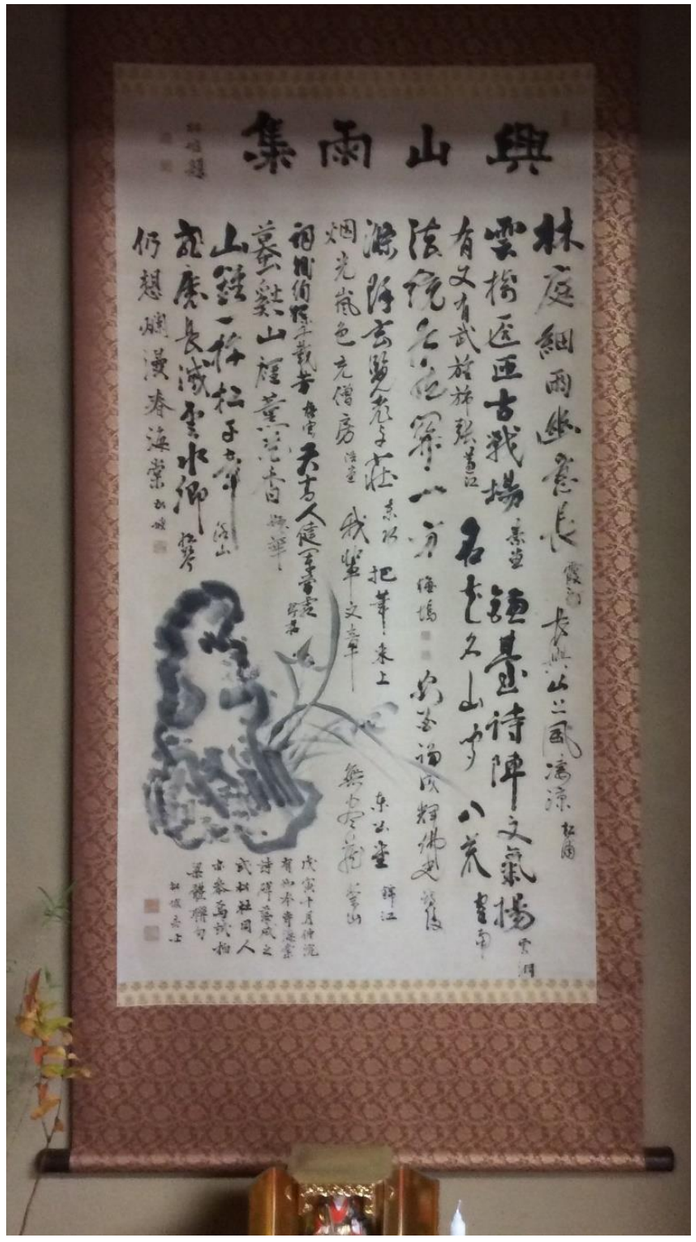
昭和二（1927）年、日雅上人が比企谷の妙本寺住持として晋山したことを祝って松坡先生が詠じた詩の一節には「舌鋒磨礪降魔剣（舌鋒　磨砺（まれい）す降魔（ごうま）の剣）」とあります。人間を誘惑する悪魔の軍勢を退治する剣が上人の鋭い説法によって研ぎ磨かれる、と上人を称えています。

ところで、妙本寺には海棠の名木があります。日雅上人は海棠を詠んだ歌がないのを残念に思い、親しかった松坡先生に詩を委嘱しました。先生がそれに応えて詠んだのが「海棠花下吟（海棠の花の下にて吟ず）」と題された七言語絶句です。昭和十三（1938）年頃のことです

嫩葉穠葩緑擁紅　嫩葉穠葩（どんようじょうはは）緑　紅を擁す
祇園雨霽洽光風　祇園の雨　霽（は）れて　光風洽（あまね）し
山僧説法花陰午　山僧　法を説く　花陰の午（ひる）
髣現閻浮七寶宮　髣（ほのか）に現ず　閻浮（えんぶ）七宝の宮

昭和十三年秋、この詩を刻んだ詩碑が妙本寺境内に建てられ、十月二十日に竣成式が行われました。「午前十時半小雨降る中に一同碑前に参集、住持の讀經により式を畢り樹傍に於て撮影の後方丈に歸り住持より挨拶併に植樹の縁起説明、松坡翁より、詩を以ての答辭あり午齋の饗を受け、蟇溪（比企谷）松社雅集を席題とし、分韻聯句例の如く、各自の句を箋上に寫し散會せしは四時近き頃なりき。」との詳細な記録があります。碑は現在、妙本寺祖師堂手前右の植え込みの中にあります。

尚、竣成式の午餐の折に参会者が詠じた聯句は紙に記され、「興山雨集」との題が付されて立派な詩軸に仕立てられました。東水と号して漢詩を善くした日雅上人も聯句に参加しています。現在も妙本寺の所蔵になり、書院の床にか掲げられることもあります。詩碑と共にご覧いただく機会があるかも知れません。



『興山雨集』
詩軸
（妙本寺蔵）

款記は「戊寅十月仲 浣（ちゅうかん）、妙本寺海棠詩碑の落成式有り。松社同人亦た参ず。
柏梁体の聯句を試む　松坡居士」（原漢文）